

福島で今、起こっていることは、日本の縮図である

真宗大谷派僧侶・超宗派寺院ネットワーク「寺ネット・サンガ」

なかした だいき
中下大樹

分断・分裂・思考停止、そして対立の中で

二〇一一年三月一日以降、被害の大きかった岩手・宮城・福島を定期的に訪問している。中でも福島第一原発事故が起こった福島県内に足しげく通い、福島県滞在日本数は震災後、既に百数十日にも及び、お話を聞かせていただいた数は、記録しているだけで千人を超えた。親しくなった方々が住む仮設住宅内にも泊めていただき、酒を飲み交わしながら深夜まで語り明かしたことも数えきれない。そこで聞いた声を行政や政治家に政策提言として伝えるとともに、ひとりの人間として、またひとり

の宗教者として、今、何をすべきか？どうあるべきか？自問自答している。また、了解を得た方のみ、福島で必死に生きる人々の声を個人的にネット上通じて発信している。反響が大きかったものを、いくつか紹介したい。

福島市（仮設）八〇代の女性

『除染なんて、私達が若いころ（戦時中）、強制的に竹やりを持たされて鬼畜米英と言わされていたのとは本質的には同じ。小手先だけの対応で、何の意味もないことは皆、分かっている。でもそれを声に出すと、非難される。同調圧力だよ』

福島市（仮設）三〇代女性

『福島県から他県に避難すれば「東電からいくら貰ったんだ？」と県外の人に言われ、福島に残って「放射能が心配だ」と地元の人たちに言うのと、「お前は県外に避難しただろ。裏切り者！」と言われ、変人扱いされる。進むも地獄・引くも地獄。普通に子供達と暮らしたいだけなのに、どうしてこんなに苦しまなければいけないの？』

福島市（仮設）六〇代女性

『国はスピーディーをあえて公表しなかった。結果、放射線量の高い所に避難させられた私たち。国は、私たち福島の間人を見捨てたんだ。もう防護服なしでは故郷にすら戻れない…』

福島市（仮設）七〇代男性

『冬に出稼ぎに行かずに、安定した暮らしを得るため、子供や孫と同じ場所ですと暮らすために、俺たちは原発を受け入れた。豊かな暮らし、安定成長を求めて原発を受け入れた。そしてそこで俺はずっと働いてきた。そ

れがこんな事になるなんて…』

福島市七〇代男性

『若い世代にとっては、福島から逃げるのが一番の選択じゃないか？ 未来のある若者には、是非逃げてほしい。しかし、俺達のような年寄りには、今更逃げてみええ生まれ育った故郷で死ぬまで暮らしたい。でも、それは自分で決めたこと。どうなっても覚悟を決めているよ』

福島市五〇代男性

『知人の男性が2名、ここ数カ月で自殺したよ。男は仕事や家族を失うと、本当に弱いね。今まで名刺の肩書きだけで勝負してきたのに、3・11を機にゼロになってしまった。俺も今は無職。仮設の集会所でお茶飲み会とか体操とかをやっているけど、大の男が一人で参加できると思えるか？』

いわき市（仮設）六〇代男性

『原発で三〇年働いてきた。でも今は被曝して働けな

い体。人は目の前の現実が辛いと、現実逃避するんだ。将来の事なんて、意図的に考えないようにしている。酒を飲んでカラオケを歌って気晴らしをするけど、いい年したオヤジが何やっているんだろう？　と思って、情けなくなる』

いわき市（仮設）六〇代男性

『どうしたら原発が止められるかって？　そんなこと簡単だ。もう一回どっかの原発が爆発して日本中が汚染され、人が住めなくなると原発を止めることは根本的に無理じゃないのか？　事故が起きた今だって、ここでは原発関連の仕事しかないもの。アメリカ・財界・官僚が政治家に圧力をかけている構造も問題だな』

いわき市（仮設）七〇代男性

『被災者と言っても、状況は皆、違う。家族が死んだ人・家族が生きている人、仕事を失った人・仕事がある人、家を流された人・家がある人、帰る場所がある人・帰る場所がない人、カネがある人・カネがない人……。確

南相馬市小高区（原発から一七キロ）同慶寺住職

『お寺の中は、ネズミが大量発生して、その糞尿や死骸が至る所に散乱し、物凄いい事になっている。布団の中にもネズミの死骸が溢れ、布団で寝ることもできない。是非、この現実を多くの人々に知ってほしい。まだ、お寺には入れるが、住むこと・生活は出来ない』

会津若松市（仮設）七〇代男性

『国は原発事故収束を宣言したけど、本気なのか？　この国はどこを向いて、何を守ろうとしているのか？　俺たち、福島で必死に生きている人々の姿が見えているのか？　帰りたくても故郷（大熊町）に帰れないし、仮設も期限付き。先が全く見えない』

二本松市三〇代男性

『今、福島で最も深刻な問題は離婚と自殺、あと、家庭内での虐待や暴力。放射能は人体への影響だけでなく、家族・地域・様々な人間関係などもズタズタにして引き裂いた。やり切れない思いや苛立ちが他者へ向かえば暴

かな事は、震災前からあった格差が今、露呈しているという事』

いわき市（仮設）四〇代女性

『仮設で中高年の男性の自殺が起きた。明日は我が身……。でも、生きていけばいいことがあるなんて、口が裂けても子供達には言えない。明るい未来なんて、ここ福島では絶対にありえない。普通に生きて、当たり前前に暮らせることが、こんなにも難しいことなんて思わなかった』

南相馬市五〇代女性

『私は最近、放射能より、人間の方が怖いと思う時がたくさんあります。ここ福島では、放射能の話をするだけで、圧力がかかる雰囲気の一部に蔓延しています。命がけで、放射能の問題を意図的に考えないようにしている人がいっぱいいる。一種の思考停止状態。それは自分を守るため？』

力や虐待になり、自分に向かえば自殺となる』

二本松市三〇代男性

『大人は子供を守ってくれない。子供達を守る為、除染や食品検査等を自分達で行っているが、国や行政や学者たちが子供達を本気で守ってくれたら、今の様な活動をしなくても良かった。口では皆、綺麗事を述べるが、為政者たちは何もしてくれない』

私が聞いた言葉は、福島県民二百万の中のごく一部の限られた声にすぎない。しかし、上記の言葉は、新聞やテレビなどのメディアではあまり伝えられていない。私は福島を訪問し、そこに住む人々の声を実際に聞いてみて感じたことは、「福島で今、起こっていることは、分断・分裂・思考停止、そして対立である」ということであつた。そしてそれは、日本社会の縮図そのものではないかと私は考えている。冷静に今の社会を俯瞰的に見渡してみると、原発を巡る一連の問題は、福島だけで起こっている特殊な地域の特殊な現象であろうか？　わが国